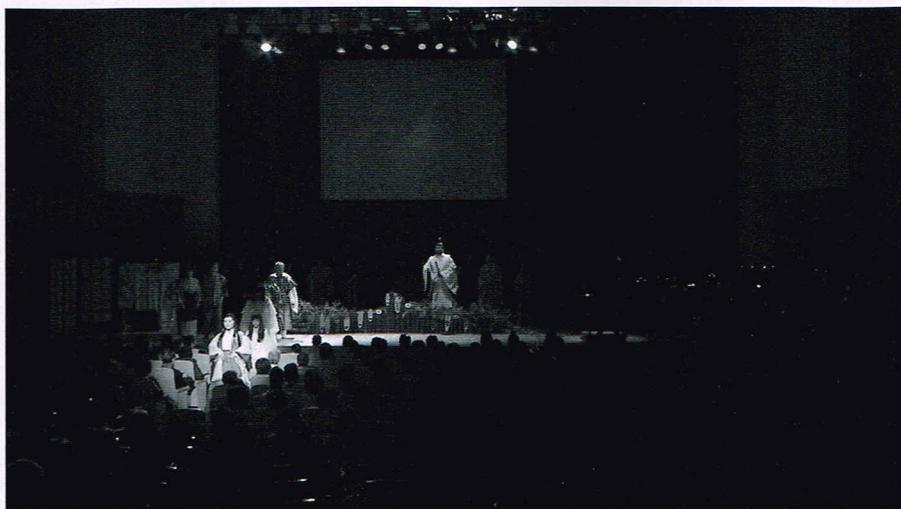




30回以上の上演実績！

オペラ《かぐや姫》旭川公演



さまざまな工夫が凝らされ、舞台と客席の一体感が生み出された平井秀明のオペラ《かぐや姫》の舞台 ©旭川ケーブルテレビ

2003年初演以来、国内外30回以上の再演をもつ平井秀明のオペラ《かぐや姫》が旭川クリスタルホールで上演された。旭川出身のバリトン歌手、

豊島雄一が郷里旭川への思いを熱くプロデュースした手作りの市民オペラ。

出演は、中江早希(かぐや姫)、豊島雄一(帝)、立花敏弘(翁・客演)、小林優希(姫)、他、地元の歌手たちが、ヴォーランティアで脇を固めた。北日本フィルハーモニー管弦楽団、旭川放送合唱団、旭川市ななかもど少年少女合唱団、平井秀明オペラ合唱団、これら出演スタッフの渾身の演技演奏は、当ホールの過去に例のない好演となった。

平井秀明の《かぐや姫》は、祖父(平井康三郎)譲りの、奇を衒わず、平明枯淡の閑雅な造りに優しさがあがり、題材の良さと相俟って純粹に聴く者に入り込む。洋の東西、世代を問わず、まさに三世代で楽しめるオペラである。本人自らの指揮でその効果も大きい。

当ホールは600人収容、緞帳なしの舞台、客席一体の音楽ホール。元来、オペラは可能でない。これを、オーケストラを上手端に置き、下手端に役者処を、中央を広く歌手たちの立ち回り場とする等、狭い舞台でオペラを上演する工夫が綿密になされている。この中小ホールの規模が聴き易く、見易い距離感を生み、演技者、観客の自然な親しみある一体感を醸し出している。これを演出した小澤可乃(旭川出身、在イタリア)とスタッフの発想と実行に賞讃の意を表したい。

鳴り止まない拍手の中で、旭川市民のオペラを堪能する真の感動と深い満足感は、いつまでも心に残る。

取材・文 萩原尚文